

千葉県 地域連携のススメ

(地域学校協働活動ボランティアだより)



第31号 令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰校の紹介
令和7年3月24日 発行：千葉県「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動」推進委員会

S 4, R

令和6年度

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」 文部科学大臣表彰

この表彰は、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを進め、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現を目指すことを目的に、学校と地域が連携・協働し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に実施する取組のうち、その内容が他の模範として認められるものに対し、文部科学大臣が表彰を行うものです。

令和7年2月28日に、「表彰式」及び「コミュニティ・スクール制度化20周年記念フォーラム」が行われました。千葉県からは3校の取組が受賞となりました。

受賞された3校の取組を御紹介します。

受賞校① 県立下総高等学校 学校運営協議会・地域学校協働活動

学校と地域が一体となって生徒を育てる

背景・取組概要

地域の中で子どもたちを育む取組を推進することにより、子どもたちの非認知能力を高め、よりよい人生を送るために必要な生きる力を育てる。子どもたちが地域で活動することにより、地域が元気になる。

工夫・ポイント・特徴的な取組

■学校運営協議会

年3回協議会を開催している。学校教育活動支援・地域連携推進・広報活動推進の3つの分科会を設け、分科会での話し合いを踏まえ、全体会での熟議を深めている。

【学校教育活動支援】

- ・3年生の進学・就職試験における面接練習では、委員が面接官役となって指導している。
- ・各学科代表生徒による課題研究発表会に出席してもらい、講評を委員にお願いしている。

【地域連携推進】

- ・地元印旛沼漁業協同組合の協力を得て、園芸科では利根川の特定外来種（アメリカナマズ）を原料とした液肥の開発を行い、レタスやメロンの栽培に使用し、成果を上げている。
- ・成田国際空港株式会社から第三滑走路造成工事に伴う、伐採木チップの提供を受け、畑の被覆材等に利用しエコ野菜の栽培に取り組んでいる。その収穫した野菜を成田国際空港株式会社の社員食堂で『下総高校DAY』を設けて、食材として使用してもらったり、園芸科生徒が自ら販売を行ったりしている。
- ・3学科で隣地にある義務教育学校との交流を積極的に行っている。
- 園芸科：生徒が小学生のさつまいもの植え付けや芋掘りの手助けをする。
- 自動車科：生徒が小学生のレスキューロボット作製の補助をする。
- 情報処理科：生徒が中学1年生のプログラミング学習の補助をする。



【広報活動推進】

- ・委員が学校との橋渡しとなり、地元ショッピングモールでの学校紹介を兼ねた3学科合同のイベントが実現した。
- ・学校紹介のチラシ『小御門かわら版』を委員が企画・編集を行い、中学校訪問等を通じて、直接中学生に手渡されるとともに、駅や市役所、公民館などに設置し、本校の教育活動について市民への発信源となっている。
- ・地元FMラジオ局「ラジオ成田」に生徒や職員が出演して、学校での取組を紹介している。
- ・中学校や外部での高校説明会等の機会に、生徒が自分たちの取組を発表している。



成果・効果

- 生徒たちは外部での発表会や学校説明会等では、積極的に自分たちの取組を発表し、コミュニケーション能力や表現力の向上が見られた。
- 小・中・特別支援学校との交流では、生徒がお兄さんお姉さん役となって手助けをすることで、自己有用感が高まり、それが生徒たちの自信につながった。
- これまでの教職員の丁寧な指導の積み重ねと、学校運営協議会委員の方による面接練習等で、進路決定率が高まった。
(令和3年度94.2%【導入前】、令和4年度98.9%、令和5年度100%)

受賞校② 柏市立土南部小学校 学校運営協議会

～地域の力を学校に～ みんなでつくる楽しい学校

工夫・ポイント・特徴的な取組

①教職員への聞き取り

校長が主体となり、教職員へ「地域の人たちに手伝ってほしいこと」についてアンケートを実施。

②アンケート結果を整理

「学校における働き方改革 特別部会資料」を参考に、
①基本的には学校以外が担うべき業務
②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務
③教師の業務だが負担軽減が可能な業務 の3つに振り分け、委員へ共有し協議。
⇒「それは学校がやるべきことでは？」という忌憚のない意見もあった。

③学校参観を実施

学校運営協議会で校内参観を実施。
実際の学校現場を委員全員で確認・共有。

④地域の力を学校に

学校として欲しい力と、地域の力を組み合わせ組織立て
①安全 ②環境 ③学習 ④生活 の4グループとした。



成果・効果

- ・登下校の安全対策、プリントやドリル等の丸付け、業間・昼休みの見守り、校内整備（花壇・除草等）、安全パトロール等、学校に「地域」が入ることが、子どもたちにとっては日常となり、学校にとっては欠かせないものとなっている。
- ・普遊びやミシン実習の補助等、教育課程においても学校支援ボランティアとして多くの地域住民が参画。近隣のコミュニティ・スクールと協働した稲作体験や、研修講師に地域人材を活用する等、社会に開かれた教育課程にもつながり始めている。

受賞校③ 市川市立第四中学校 学校運営協議会（第四中ブロック地域学校協働本部）

第四中ブロック（中学校区）：第四中学校・中山小学校・若宮小学校

家庭と学校と地域をつなぐ

工夫・ポイント・特徴的な取組

①コミュニティカレンダー

平成30年7月から始め、『子どもに関心を持ち、子どもたちにとって良い環境をつくり、地域全体が暮らしやすく、地域の活性化につながるように』という願いを込めて作成、発行をしている。令和6年7月で第20弾となったが、この願いは変わらずに続いている。コロナ禍では、学校や地域の情報集めがなかなか進まず、発行ページが少なくなったこともあったが、現在では、内容も充実している。掲載している内容として、
・3か月分の四中ブロックの学校行事、地域行事、市川市の行事
・ブロック内の学校の様子、児童生徒数、校長先生、教頭先生の名前
・地域の公民館の行事、ベルマークなどボランティア募集、地域行事の詳細など
多くの情報が掲載されており、全児童生徒の家庭、地域の自治会などに配付をし、「学校、地域の情報がよく分かり、カレンダーを毎回楽しみにしている。」という声もあり、コミュニティカレンダーが地域に浸透している。

②地域とともにある学校づくり交流会（含3校合同学校運営協議会）

令和元年度から「地域とともにある学校づくり交流会」という形でスタートした。第四中ブロック3校の合同学校運営協議会を兼ねて実施をしており、学校運営協議会委員だけでなく、各校のボランティアの方々、公民館、教育委員会、地域学校協働活動推進員などが参加している。内容として、各学校の紹介や三校での取り組み、市川市少年センターから防犯や子どもからの相談に関する報告を行っている。また、交流会では、子どもたちにとっての危険箇所や危険な行動について意見交換を行い、地域全体で見守りを行うことなど確認した。地域の方々が見守りを行う際に、身元が分かりやすいように令和5年度にリストバンドを作成し、安心して子どもたちに声掛けができるようにしている。



学びの未来



「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動」についてもっと知りたい方
(文部科学省・こども家庭庁合同ホームページ)
<http://manabi-mirai.mext.go.jp>

学びの未来 で検索

【問合せ先】 千葉県教育庁 教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室

TEL:043-223-4069 メール:kyscho2@mz.pref.chiba.lg.jp